



東海中新聞

NO. 374
令和4年8月号

怒ることと

諭すこと

校長 今枝武司

先日、元全日本バレーボールの選手で「監督が怒ってはいけない大会」の主催者である益子直美さんの講演を聞く機会がありました。大会を主催したのは、「怒られる指導」でバレーボールが嫌いになり、辞めたい逃げたいと思うことが多くなった自身の経験から、子供たちに楽しくバレーボールをする環境を作ろうとしたことがきっかけだったそうです。

そういう私も若い頃は「怒る指導」をしていました。そうすることで、何事にも負けない強い心を作っているんだと思っていました。でも、それはただの自己満足であり、間違いでした。「怒る指導」は、その恐怖心から怒られないようにしようとする技術は一時的に上達します。しかし、心の成長を阻止し、考える機会を奪います。自分で決めた目標ではなく、人から与えられたものを目標として活動します。きつと楽しくなかったんだと反省しました。

ある時から「怒る指導」を封印し、「怒らず諭す指導」に方向転換しました。そ

れは、子供たちの能力を最大限に生かすにはどうしたらいいかと考えた末の決断でした。

でも、人を傷つけるなど、どうしても許せない行いをした時は叱りました。その時必ず、どうして叱られるのか理詰めで諭すようにしました。最後に「信頼していたのに」「あなたの能力ならもつとできるはずなのに」と添えて。叱つたらぐつと我慢し、その十倍は声をかけました。少しでもいいところがあったり、結果が出たりしたら褒めます。何もなくても声をかけます。下を向いているからこそ十倍声をかけるのです。

表情や態度も変えました。眉間にしわを寄せて怒っている表情よりもたれ目にして笑っている表情を多くしました。肩や頭に手をかけて「心配しなくていい。自信をもって」とにっこり笑って話しかけました。自然と生徒の表情も和らぎ、肩の力が抜けていくのがわかります。落ち込んだり、自信をなくしたりしている生徒をフォローし、自信をつけさせるのが我々の務めだと思いません。生徒がホッとする逃げ道を作らないと信頼関係は生まれません。

二学期、生徒も先生も怒らない学校生活を目指します。ダメなものには許さない姿勢は譲りませんが、個性や多様性を認め、チャレンジ精神を称え、温かくて笑顔の多い生活です。

東中PTAだより

PTA 委員会
東海中
広報 第216号

市長杯観戦記

最後の市長杯

女子バレーボール部保護者

七月二日、ついに最後の大会が始まった。女子バレーボール部は三年生が四人しかいない。少ない人数でこれまで、力を合わせて練習に取り組んできた。塾や習い事の合間をぬって自主練習も頑張ってきた。その努力の成果を出す最後の大会だと思つと、私まで試合前から緊張していた。



初戦は、強敵の矢作中。最後まで諦めずに食らいついたが、惜しくも負けました。しかし翌週のトーナメントに向けて気持ちを切り替えて練習に取り組んでいた。

九日、初戦は六美北中。前半はミスが多くいつものバレーができていなかったが、後半本来の動きを取り戻し勝利する事ができた。

続いて竜南中との試合。第一セットを取り、このままの勢いで願ったが、第二セット第三セットを取られ負けてしまった。

私たちのいる応援席に向かって整列して「いままで応援ありがとうございました」と挨拶してくれた姿を見て心からの拍手を送った。

三年生の四人だけではバレーはできない。二年生やその保護者の方々、指導してくださった先生方に心から感謝して、自分たちのバレーをやりきった事を誇りにこれからの人生を送ってほしい。

夏の扉

野球部保護者

三年生にとって、引退試合となる市長杯。コロナのせいもあり、一年生の時はほぼ部活がなく二年生でも特別たくさん練習出来た訳でもなく三年生になり、いつの間にか本当に絆のあるチームになりました。あまり打てなかつた息子がホームランまで打てるようになり、チームの為に頑張る姿を試合を通して見る事が出来、その瞬間に

青春の時を、一緒に味わえてとても嬉しく思いました。

市長杯の日もすぐ暑く、初戦から強い学校と当たってしまったけれど、彼らは物怖じすることなく、仲間を信じ、一生懸命プレーをし、喜ぶ姿、悔しがる姿と一喜一憂する姿がそこにはありました。試合には負けてしまっただけで見ている人を感動させる心に残る一日となり、彼らにとって



も今後の日々を送る人生の宝物の毎日になった事と思えます。母らも青春の時の様に胸が熱くなる程の応援をする事が出来それはそれは嬉しかったです。



成長を感じた市長杯

ソフトテニス部保護者

三年生最後の大会となった市長杯。団体戦は、多くの保護者の方々の応援の中行われましたが、惜しくも二回戦敗退でした。

初めて息子がユニホームに袖を通した時は、ユニホームはブカブカで、上手にサーブも打てず、返せずで大丈夫なかと思っていました。コロナ禍の中で、満足のいく練習や試合もできなかったでしょうが、最後の大会でボールを追いかける子供達の日焼けした後ろ姿は、大きく頼もしく成長を感じました。

二年半、お忙しい中ご指導頂いた顧問の先生方、試合の度に応援して頂いた保護者の方々ありがとうございました。そして、一生懸命頑張った子供達、おつかれさまでした。中学校生活も残り半年ですが、今後進む自分の進路に向かって、もう一踏ん張り努力して、後悔のない中学校生活を送って欲しいと願っています。



教育講演会

夢を叶える三つの魔法

一年生保護者

先生を講師

六月十一日に先生を講師に迎え、講演会が開かれました。この様なものに参加する機会がなく静かに座って話を聞くというイメージを抱きながら会場へ。ざわざわしている中講演会が始まりました。挨拶するなり、生徒たちをグループ分けして今から何が始まるのか会場でワクワクしてしまいました。デイズニールランドを例に挙げてそこで働くスタッフの事や園内の構造の仕組みまで分かり易く話されてとても興味深くおもしろかったです。

何と言っても今回の講演会は体験型でデイズニールランドのキャストになったり、声優になったり、会場中講演会とは思えない盛り上がりでした。アニメーションという夢を抱いて、何度失敗しても立ち上がり、色んな角度からアプローチして挑戦し続けて、夢が形となりそれでも夢を追い続けたウォルト・デイズニーに触れて、子供たちは何を感じ取ったのだろう。まだ将来のことは想像できない子が多いと思いますが、心のどこかで覚えていてほしい。

「夢は叶う

もし君が追い求めるならば」



二年二組

私は夢を叶える三つの魔法のジャンケンパーの「手を挙げること」が心に残りました。無謀でも、やりたいという気持ちが大切だということを感じました。さんが川越デイズニール計画を立て、デイズニーに送ったことはとても驚きました。それでも、文化祭の参加者を増やすことを諦めずに、結果増やせたことにも驚きました。諦めなければできると大畠さんの実体験から教えてくれたので、とてもわかりやすく、心に刻まれました。



二年三組

講演会の中で「たくさん失敗」という言葉、「あきらめてやると失敗」という言葉がすごく心に響きました。私は失敗が怖くて授業などで進んで手を挙げる事ができません。しか

し、この二つの言葉で「あきらめなければ失敗じゃない」と思い、あきらめずに前へ進もうと思えました。あと、「目標を声に出す」このことも実践します。将来の夢に向かってがんばりたいと思います。

三年四組

お話の中で特に印象に残っているのは、あのデイズニーさんでも失敗を続けて、それでもあきらめなかつたから成功することができたということなんです。僕には夢があります。これから、進んで行く中で、あきらめそうになることも多いと思いますが、今回のお話を思い出してがんばっていきたいと思いました。他にも楽しむことの大切さや、自分の夢をみんなに話すことで夢に近づくことができることなど、本当に感動しました。本当に自分の夢を叶えたいのであれば、自分の行動にうつすことが大切だと改めて感じました。



三年三組

講演会を聞いて印象に残っているのは「やってみることが大切であり、失敗は方法によっては未完成にできる」ということでした。自分は得意分野の事には積極的に意見を述べますが、その他のものには消極的になってしまいます。でも、今回、やってみることが大切で、間違えてしまってもそれは失敗ではなく、未完成だけだと聞き、苦手なものにも目を向けて積極的に取り組んでいこうと思いました。



二年四組

班員に意見を聞いた時、「No, Because」ではなく、「Yes, If」の発想で進めるのは、もつと面白い発想になるように、もしかしたら自分よりも良かったり、自分が気付かなかったりしたことにつながるかもしれないから、当たり前なのかもしれないけれど、とても大切なんだと思いました。常に「Yes, If」の発想で物事考えたいです。

授業研究発表会 岡崎市教育委員会委嘱

未来を切り拓く生徒の育成

「ファシリテーション」を核とした

チーム学習を通して

本校は令和二年度、岡崎市教育委員会より「自ら未来を切り拓く力を育む、個別最適化教育の創造」の研究委嘱を受けました。十月二十六日（水）に研究発表会を開催します。

本校では「生徒は有能であり、学ぶ力を持っている。授業は生徒が学ぶものであり、教師が一方的に教えるものではない」という生徒観・授業観を大切に、自立的・共生的に学ぶ生徒を目指し、研究を進めてきました。

本校では、すべての教科・領域の授業を同じチームで学ぶチーム学習を取り入れていま

す。本校が考えるファシリテーションを核としたチーム学習とは、チームメイ

トのかかわり合いを通して生徒が学びを支援し合う「生徒によるファシリテーション」と生徒の学

びや生徒同士のかかわりを支援する



「教師によるファシリテーション」に支えられています。

教師は前面に出ず、学びを生徒に委ねます。つまり、これまでの教師主導型の一斉授業から生徒主体のチーム学習に授業を転換しました。これにより授業に受け身になる生徒は大幅に減少し、聞いたり教えたりするコミュニケーション能力が向上しました。昨年度の授業アンケートでは『途中で投げ出すことなく、粘り強く学習に取り組んでいますか』という設問に対して、八十六%の生徒が肯定的に答えています。

本校が行っている未来型の授業に対して当日は市内から二百名以上の参観者が予想されます。生徒が生き生きと授業する姿を見ていただきたいと思えます。

※学区の皆様、十月二十六日の午後、学校周辺の道路は大変混雑するこ

とが予想されます。「迷惑をおかけしますが、何卒、「ご理解いただきま

すようお願いいたします。



今後の予定

九月

一日（木）

二年生岡崎学力検査
一・二年生実力テスト

二日（金）

学校保健委員会
アーチェリー部

三日（土）

モンゴル選手団との交流

八日（木）

中間テスト範囲発表
部活動休止

九日（金）

高校説明会（公立）
（十六日まで）

十一日（日）

吹奏楽祭

十二日（月）

清掃強調週間

十五日（木）

中間テスト
（十六日まで）

十六日（金）

教育講演会

二十日（火）

後期生徒会役員選挙

二十二日（木）

高校説明会（私立）

二十三日（金）

第一回文化教養講座

二十八日（水）

キッズデザイン
新人戦

十月

（十月二日まで）

五日（水）

体育大会予行

八日（土）

体育大会

十四日（金）

体育大会代休

十五日（土）

理科作品展

技術・家庭科作品展
おさざきつ子展
（十六日まで）

やまなみ

教育随想

人が環境を作り、環境が人を育む

教務主任 伊藤 篤史

この夏、二つの言葉をよく見聞きした。一つ目は「観測史上一位・最大級」。経験したことがないような豪雨の頻発により甚大な自然災害も発生した。豪雨の頻発は地球温暖化の影響が指摘されており、つまり人が作り出した環境である。二つ目は「三年ぶり」。全国各地で祭りが開催されたり、帰省により再会が見られたりした。コロナ禍で、工夫や規制など知恵を絞り感染対策がされてのことであった。つまり環境が人を成長させた。この夏休みに東海中の環境に大きな変化があった。廊下の壁の塗り直しをしていただき校舎内が明るくなったことと、普通教室に電子黒板が設置されたことである。新たな環境の下、十五年ぶりの研究発表会をはじめ、各 шко行事でその時最大級に充実感を感じられるよう、日々生き生きと学ぶことができる生徒を育てていきたい。